

SiteMinder

Web エージェント オプション パック ガイド

12.52 SP1



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルでは、以下の CA Technologies 製品に言及しています。

- SiteMinder

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

マニュアルの変更点

以下のドキュメントの更新は、本書の最新のリリース以降に行われたものです。

- [JBoss サーバでの FWS WAR ファイルの展開の前提条件](#) (P. 60) - JBoss サーバで FWS WAR ファイルを展開する前に必要なプロシージャを追加しました (179123)。
- [JBoss または Tomcat での FWS WAR ファイルの展開](#) (P. 62) - JBoss EAP 6.1 での FWS WAR ファイルの展開に関する注を追加しました (179123)。
- JBoss での Windows システムの前提条件 - JBoss 5.1.2 で Windows システムへの Web エージェント オプションパックのインストールについて推奨されるシステム要件を追加しました。CQ 179105 を解決します。
- 以下のアイテムは CQ 171546 (STAR イシュー： 21429459) を解決します。
 - [WebAgent.conf ファイルの作成](#) (P. 42) - WebAgent.conf ファイルで参照されるエージェント設定オブジェクトは新規オブジェクトである必要があるという旨の注を削除しました。このトピックは WebLogic、WebSphere、JBoss および Tomcat サーバに適用されます。
 - [フェデレーション Web サービス用プロパティ ファイル](#) (P. 26) - AgentConfigLocation 設定の説明を改訂しました。
 - [FWS によって使用されるエージェント設定オブジェクト設定](#) (P. 27) - フェデレーション Web サービス アプリケーションが使用するエージェント設定について説明するセクションを追加しました。

目次

第 1 章: Web エージェント オプション パックの機能	7
第 2 章: インストール要件と考慮事項	9
一般的なオプション パック インストール要件	9
必要とされる Linux ライブラリ	10
JBoss での Windows システムの要件 (179105)	12
システム ロケールは、インストールおよび設定ディレクトリの言語と一致する必要がある	12
SiteMinder Federation に必要なコンポーネント	13
eTelligent ルールに必要なコンポーネント	13
バージョン互換性	13
インストールによって追加される環境変数	14
Solaris 上の Java 仮想マシン インストール エラーは無視可能 (149886)	14
JBOSS 上の Web エージェント オプション パックに必要な回避策	15
第 3 章: Web エージェント オプション パックのインストール	17
インストール モード	17
Web エージェント オプション パック インストーラの実行	18
eTelligent Rules 用の smvariable.dll ファイルの移動	19
インストール後の次の手順	21
第 4 章: フェデレーション Web サービスの展開	25
フェデレーション Web サービス用のプロパティ ファイル	26
FWS によって使用されるエージェント設定オブジェクトの設定	27
LoggerConfig.properties ファイルの設定	28
さまざまなサーバへの FWS の展開の手順	30
フェデレーション Web サービスで動作するための ServletExec の設定	31
フェデレーション Web サービスで動作するための WebLogic の設定	38
フェデレーション Web サービスで動作するための WebSphere の設定	47
フェデレーション Web サービスで動作するための JBOSS または Tomcat の設定	55
第 5 章: 無人モード インストール	65
無人モード インストールを実行する方法	65

無人モードインストールの準備.....	66
無人モードインストールの実行.....	67
進行中の無人インストールの停止.....	68
第 6 章: Web エージェント オプション パックのアンインストール	69
Windows システムからの Web エージェント オプション パックのアンインストール.....	69
UNIX システムからの Web エージェント オプション パックのアンインストール.....	70
第 7 章: Web エージェント オプション パックのアップグレード	71
混在バージョンのアップグレードに関する考慮事項.....	71
オプション パック アップグレードの実行.....	75

第 1 章: Web エージェント オプション パック の機能

Web エージェント オプション パックは SiteMinder とは別にインストールする必要があるスタンドアロン コンポーネントです。コンポーネントは、フェデレーション Web サービス (FWS) および eTelligent Rules POST 変数のサポートを、アプリケーション サーバまたは Web サーバにインストールします。

注: Web エージェント オプション パックと異なり、ポリシー サーバ オプション パックはスタンドアロン コンポーネントではなくなりました。ポリシー サーバ オプション パックはポリシー サーバのインストールに含まれています。

Web エージェント オプション パックは以下の機能をサポートします。

CA SiteMinder® Federation (パートナーシップおよびレガシー)

パートナーシップ フェデレーション

パートナーシップ フェデレーションは、フェデレーション パートナーシップの設定に基づいています。パートナーシップ モデルでは、ドメイン、レルム、ポリシーなど SiteMinder 固有のオブジェクトを設定する必要がありません。

詳細については、「*CA SiteMinder® Federation* パートナーシップ フェデレーションガイド」を参照してください。

レガシー フェデレーション

レガシー フェデレーション (以前のフェデレーションセキュリティ サービス)。

レガシー フェデレーションは、アフィリエイト ドメイン、認証方式、フェデレーション リソースを保護するポリシーなど SiteMinder オブジェクトの設定に基づいています。

詳細については、「*CA SiteMinder® Federation* レガシー フェデレーション」を参照してください。

eTelligent ルール

eTelligent ルールは、ブール演算子およびユーザ定義の変数を組み合わせたポリシー式で、実行時に評価されます。eTelligent ルールをポリシー式として使用することにより、管理者はポリシー サーバで保護された Web サイト上の保護されているリソースに対してきめ細かいアクセス制御を実装することができます。POST 変数をサポートするには、Web エージェント オプション パックが必要です。

eTelligent ルールの詳細については、「[ポリシー サーバ設定ガイド](#)」を参照してください。

第 2 章: インストール要件と考慮事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[一般的なオプションパック インストール要件 \(P. 9\)](#)

[システム ロケールは、インストールおよび設定ディレクトリの言語と一致する必要がある \(P. 12\)](#)

[SiteMinder Federation に必要なコンポーネント \(P. 13\)](#)

[eTelligent ルールに必要なコンポーネント \(P. 13\)](#)

[バージョン互換性 \(P. 13\)](#)

[インストールによって追加される環境変数 \(P. 14\)](#)

[Solaris 上の Java 仮想マシン インストール エラーは無視可能 \(149886\) \(P. 14\)](#)

[JBOSS 上の Web エージェント オプションパックに必要な回避策 \(P. 15\)](#)

一般的なオプション パック インストール要件

Web エージェント オプションパックをインストールする前に、以下のコンポーネントが必要です。

- サポートされるアプリケーションサーバ

サポートされるアプリケーションサーバについては、[テクニカル サポート](#) サイトでプラットフォーム サポート マトリックスを参照します。

アプリケーションサーバとして ServletExec を使用する場合は、最新のホットフィックスを適用します。フェデレーション Web サービスは、これらのホットフィックスが ServletExec で動作することを必要とします。ホットフィックスを取得するには、[New Atlanta Communications Web](#) サイトに移動します。

- サポートされる Java Development Kit (JDK) 。
JDK または JRE が付属するアプリケーション サーバを使用している場合でも、この JDK は必要です。
- Linux オペレーティング環境では、必要な Linux ライブラリがインストールされていることを確認してください。

Web エージェントなしに Web エージェント オプション パックをインストールすることができます。ただし、フェデレーションを使用する前に Web エージェントをインストールしてください。

必要とされる Linux ライブラリ

Linux オペレーティング環境上で動作するコンポーネントには、特定のライブラリ ファイルが必要です。正しいライブラリをインストールしないと、以下のエラーを引き起こす場合があります。

```
java.lang.UnsatisfiedLinkError
```

このコンポーネントの Linux バージョンをインストール、設定、またはアップグレードする場合は、ホスト システム上で以下のパッケージが必要になります。

Red Hat 5.x

- `compat-gcc-34-c++-3.4.6-patch_version.i386`
- `libstdc++-4.x.x-x.el5.i686.rpm`
- `libidn.so.11.rpm`
- `ncurses`

Red Hat 6.x

- libstdc++-4.x.x-el6.i686.rpm
- libidn-1.18-2.el6.i686
- libXext.i686.rpm
- libXrender.i686.rpm
- linXtst.i686.rpm
- libidn.so.11.rpm
- ncurses

Red Hat 6.x (64 ビット) の場合はさらに以下 :

注: 64 ビット Red Hat 6.x に必要な RPM パッケージはすべて、32 ビットの
パッケージです。

- libXau-1.0.5-1.el6.i686.rpm
- libxcb-1.5-1.el6.i686.rpm
- compat-db42-4.2.52-15.el6.i686.rpm
- compat-db43-4.3.29-15.el6.i686.rpm
- libX11-1.3-2.el6.i686.rpm
- libXrender-0.9.5-1.el6.i686.rpm
- libexpat.so.1 (expat-2.0.1-11.el6_2.i686.rpm により提供)
- libfreetype.so.6 (freetype-2.3.11-6.el6_2.9.i686.rpm により提供)
- libfontconfig.so.1 (fontconfig-2.8.0-3.el6.i686.rpm により提供)
- libICE-1.0.6-1.el6.i686.rpm
- libuuid-2.17.2-12.7.el6.i686.rpm
- libSM-1.1.0-7.1.el6.i686.rpm
- libXext-1.1-3.el6.i686.rpm
- compat-libstdc++-33-3.2.3-69.el6.i686.rpm
- compat-db-4.6.21-15.el6.i686.rpm
- libXi-1.3-3.el6.i686.rpm
- libXtst-1.0.99.2-3.el6.i686.rpm
- libXft-2.1.13-4.1.el6.i686.rpm
- libXt-1.0.7-1.el6.i686.rpm

- libXp-1.0.0-15.1.el6.i686.rpm
- libstdc++.i686.rpm
- compat-libtermcap.rpm
- libidn.i686.rpm
- ncurses

JBoss での Windows システムの要件(179105)

Web エージェント オプション パックをインストールする JBoss 5.1.2 での Windows システムは、推奨される以下のシステム要件を満たす必要があります。

- メモリ - 4 GB のシステム RAM
- JVM ヒープ サイズ -- 最大ヒープおよび最小ヒープの値を以下のように設定します。
 - 最大ヒープ - (-Xmx 1024m または -Xmx1g)
 - 最小ヒープ - (-Xms 1024m または -Xms1g)

システム ロケールは、インストールおよび設定ディレクトリの言語と一致する必要がある

英語以外のディレクトリに SiteMinder コンポーネントをインストールおよび設定するには、システムをディレクトリと同じロケールに設定します。また、必要な言語パッケージをインストールして、ローカライズされた文字をシステムで表示でき、ユーザがインストーラ画面で入力できることを確認します。

ロケールおよび必要な言語パッケージの設定方法の詳細については、各オペレーティング システムのドキュメントを参照します。

SiteMinder Federation に必要なコンポーネント

以下のコンポーネントが SiteMinder Federation（レガシーおよびパートナーシップ）に必要です。

- ポリシー サーバ
- アプリケーション サーバまたは Web サーバ

注: フェデレーション Web サービスの展開には、JBoss、WebLogic または WebSphere などビルトイン Web サーバを持ったアプリケーションサーバが必要です。または、ServletExec などのアプリケーションサーバプラグインを持つ Web サーバを使用することもできます。

- Web エージェント オプション パック

注: フェデレーション機能および Web エージェント オプション パックに関する既知の問題については、「フェデレーション リリース ノート」を参照してください。

eTelligent ルールに必要なコンポーネント

eTelligent ルールには、以下のコンポーネントが必要です。

- ポリシー サーバ
- Web エージェント オプション パック

Web エージェント オプション パックは、POST 変数が含まれる eTelligent ルールをサポートするために必要です。

バージョン互換性

同じサーバに Web エージェントと Web エージェント オプション パックがインストールされる場合、サービス パックおよび CR バージョンを含めて、同じバージョンである必要があります。ただし、Web エージェント オプション パックは異なってはいても互換性のあるバージョンのポリシーサーバと動作できます。Web エージェント オプション パックとポリシーサーバのバージョンを確認するには、SiteMinder プラットフォーム サポートマトリックスを参照してください。

重要: Web エージェント オプション パックとポリシー サーバが互換性のある別バージョンの場合、フェデレーション機能は 2 つのコンポーネントのうち、バージョンの低い方に制限されます。したがって、ポリシーサーバがフェデレーション機能をサポートしていても、Web エージェント オプション パックがサポートしていない場合、その機能を必要とする要求は拒否されたり、機能が無視されることがあります。Web エージェント オプション パックが機能をサポートしており、ポリシー サーバがサポートしていない場合も、同じことが当てはまります。

詳細情報:

[混在バージョンのアップグレードに関する考慮事項 \(P. 71\)](#)

インストールによって追加される環境変数

Web エージェント オプション パックのインストールは以下の環境変数を設定します。

- NETE_WA_OPACK = "INSTALLED"
- NETE_WA_PATH =
\$NETE_WA_ROOT\$\$/bin;\$NETE_WA_ROOT\$\$/bin\$/thirdparty;
\$NETE_JRE_ROOT\$\$/bin;\$NETE_JRE_ROOT\$\$/bin\$/server

Solaris 上の Java 仮想マシン インストール エラーは無視可能 (149886)

症状:

Solaris プラットフォーム上の SiteMinder 製品のコンソール モード インストールを実行しています。次のエラーメッセージが表示されます: 「このインストーラに含まれる Java 仮想マシンをインストールすることができませんでした。」 (Unable to install the Java Virtual Machine included with this installer.)

解決方法:

このエラーは無視してください。このエラーはサードパーティの問題で、機能上の影響はありません。

JBoss 上の Web エージェント オプション パックに必要な回避策

症状:

JBoss 5.1.2 サーバで、システム JAR が Web エージェント オプション パックの JAR などのアプリケーション固有の JAR を上書きする。

解決方法:

Web エージェント オプション パック XML API ファイルが JBoss システム JARS によって上書きされるのを回避します。

重要: この回避策は、製品がサポートしている JBoss バージョン 5.1.x にのみ適用されます。

以下のフィルタ パッケージを **war-deployers-jboss-beans.xml** ファイル内の 2 つの場所に追加します。

```
<property name="filteredPackages">javax.servlet,org.apache.commons.logging,javax.xml.parsers,org.xml.sax,org.w3c.dom</property>
```

フィルタ パッケージは、JBoss システム ファイルの代わりに Web エージェント オプション パック XML API ファイルの使用を許可します。

次の手順に従ってください:

1. ディレクトリ内で **war-deployers-jboss-beans.xml** ファイルを見つけます。

```
/deployers/jbossweb.deployer/META-INF/
```

2. 以下のエントリを見つけます。

```
<property name="filteredPackages">javax.servlet,org.apache.commons.logging</property>
```

3. エントリを以下のように変更します。

```
<property name="filteredPackages">javax.servlet,org.apache.commons.logging,javax.xml.parsers,org.xml.sax,org.w3c.dom</property>
```

ファイル内のこのエントリは 1 行です。

4. 手順 2 でエントリの 2 回目のインスタンスを見つけ、手順 3 のエントリで置き換えます。

XML ファイル内の両方の場所にフィルタ パッケージを追加します。

5. XML ファイルを保存します。

第 3 章: Web エージェント オプション パック のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストールモード \(P. 17\)](#)

[Web エージェント オプション パック インストーラの実行 \(P. 18\)](#)

[eTelligent Rules 用の smvariable.dll ファイルの移動 \(P. 19\)](#)

[インストール後の次の手順 \(P. 21\)](#)

インストールモード

Web エージェント オプション パックは ServletExec を実行する Web サーバ、または WebLogic、WebSphere、JBoss などサポートするその他のアプリケーションサーバを実行する Web サーバにインストールできます。

以下のいずれかのモードで、Web エージェント オプション パックをインストールできます。

- GUI モード

GUI モードでは、グラフィカルインストールウィザードを使用し、Web エージェント オプション パックをインストールします。

- コンソールモード (UNIX プラットフォームのみ)

UNIX コンソールウィンドウで、インストールに関するコマンドラインの質問を使用します。

- 無人モード

Web エージェント オプション パックをユーザの介在なしにインストールします。ネットワーク内の他のマシン上で追加のインストールを自動化するために、無人インストールモードを使用します。

注: 無人インストールを実行する前に GUI またはコンソールモードを使用して、Web エージェント オプション パックをインストールする必要があります。その初回のインストールで、無人インストール用のインストール設定を含むプロパティファイルが作成されます。

Web エージェント オプション パック インストーラの実行

Web エージェント オプション パックはスタンドアロン製品としてインストールできます。インストーラは、インストールされた Web エージェントを検出しようとしませんが、検出できない場合、続行するかキャンセルするかを選択するプロンプトを表示します。続行すると、インストールパスを入力するよう要求されます。その後、インストーラは、指定された場所にオプションパックをインストールします。

プラットフォームに適した方法で Web エージェント オプション パックをインストールします。

- Windows システム：GUI モードでインストールします。

重要： Web エージェントをインストールした直後に、Web エージェント オプション パックを Windows システムにインストールする場合は、一度システムを再起動する必要があります。

- UNIX システム：GUI またはコンソール モードでインストールします。コンソール モードでインストールするには、`-i console` コマンド引数でオプションパック バイナリを実行します。

以下の手順に従います。

1. Web サーバまたはアプリケーション サーバを停止し、実行中のアプリケーションをすべて終了します。
2. CA [テクニカル サポート](#) サイトにログインします。
3. [Download Center] をクリックします。
4. ダウンロードセンターで必要なインストールキットを検索します。
5. プラットフォームに応じてインストールプログラムを実行します。
 - Windows：実行可能ファイルをダブルクリックします。
 - UNIX：コマンドプロンプトで、以下のコマンドのいずれかを入力します。
 - GUI モード
`./binary_filename`
 - コンソール モード
`./binary_filename -i console`

例： Solaris プラットフォームで GUI モードのインストールを実行するには次のように入力します： **./ca-wa-opack-12.52 SP1-sol.bin**

注： 必要に応じて、**chmod** コマンドを使用してインストールファイルに実行権限を追加します。以下に例を示します。

```
chmod +x ca-wa-opack-12.52 SP1-sol.bin
```

6. インストールダイアログボックスとプロンプトに従ってインストールを行います。

オプションパックを再インストールするには、実行可能ファイルを再度実行します。

詳細情報：

[バージョン互換性](#) (P. 13)

eTelligent Rules 用の smvariable.dll ファイルの移動

Web エージェント オプションパックを Web サーバにインストールした後、環境が以下の基準をすべて満たす場合は、smvariable.dll ファイルを移動します。

- eTelligent ルールを使用します。
- Windows 2008 R2 (64 ビット) オペレーティング環境を使用しています。
- IIS 7.x Web エージェントを使用しています。

Web エージェント オプションパックの各インストールに対してこの手順を実行します。

次の手順に従ってください:

1. 以下の手順を実行することで、32 ビット アプリケーション用の dll ファイルを移動します。
 - a. 以下のファイルを見つけます。
C:\Program Files\CA\Webagent\win32\bin\non_stub\smvariable.dll
 - b. 前のファイルを以下のディレクトリにコピーします。
C:\Program Files\CA\Webagent\win32\bin
 2. 以下の手順を実行することで、64 ビット アプリケーション用の dll を移動します。
 - a. 以下のファイルを見つけます。
C:\Program Files\CA\Webagent\win64\bin\non_stub\smvariable.dll
 - b. 前のファイルを以下のディレクトリにコピーします。
C:\Program Files\CA\Webagent\win64\bin
- smvariable.dll ファイルは eTelligent ルールに対応するように移動されました。

インストール後の次の手順

Web エージェント オプション パック インストールを完了した後に必要な機能を設定できます。

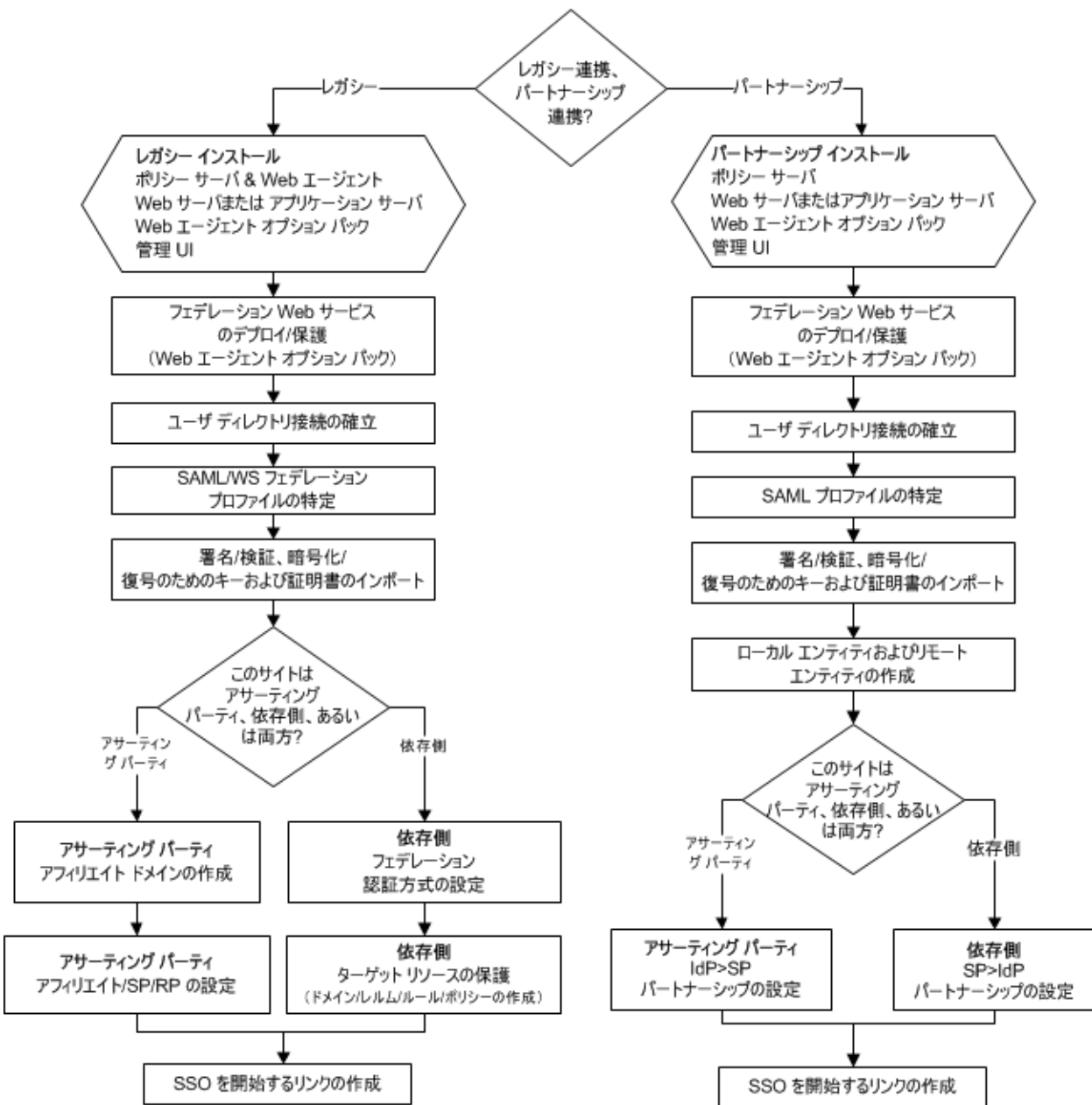
eTelligent ルール

「ポリシー サーバ設定ガイド」の手順に従って eTelligent ルールを設定します。

フェデレーション

CA SiteMinder® Federation に対して、フェデレーション パートナーシップを正常に確立するためにコンポーネントを設定します。これらのコンポーネントのほとんどは 管理 UI を使用して設定可能です。

以下のフローチャートは、レガシー フェデレーション および パートナーシップ フェデレーション の一般的なプロセスに焦点を当てています。



必要なコンポーネントおよび設定手順上の詳細については、以下のガイドを参照してください：

レガシー/パートナーシップ フェデレーション

ユーザのエンタープライズでのフェデレーション

パートナーシップ フェデレーション

CA SiteMinder® Federation : パートナーシップ フェデレーションガイド

パートナーシップ フェデレーションは、以前はスタンドアロンのフェデレーションマネージャ製品でのみ入手可能だった、フェデレーションのパートナーシップモデルを指しています。

レガシー フェデレーション

CA SiteMinder® Federation : レガシー フェデレーションガイド

レガシー フェデレーションは、フェデレーションセキュリティサービスという製品について説明しています。

第 4 章: フェデレーション Web サービスの展開

フェデレーション Web サービス (FWS) は、Java Servlet API 2.3 指定に基づいて Web アプリケーションとしてパッケージ化されるサーブレットのコレクションです。フェデレーション Web サービス アプリケーションは Web エージェント オプションパックでインストールされます。アプリケーションは、アプリケーションサーバ内で展開されるか、SPS フェデレーション ゲートウェイ内に埋め込まれる Tomcat Web サーバ内部で展開されます。

Web アプリケーションは、Web サーバ内の特定の URL、http://www.your_webserver.com/affwebservices/ をルートとします。FWS アプリケーションに含まれたサーブレットの URL にはこの同じルートがあります。

フェデレーション Web サービス アプリケーションは以下のサービスを提供します。

- アサーション取得サービス (SAML 1.x)
- SAML 認証情報コレクタ (SAML 1.x)
- サイト間転送サービス (SAML 1.x)
- Artifact 解決サービス (SAML 2.0)
- アサーション コンシューマ サービス (SAML 2.0)
- セキュリティ トークン コンシューマ サービス (WS フェデレーション)
- 認証リクエスト サービス (SAML 2.0)
- シングル サインオン サービス (SAML 2.0 および WS フェデレーション)
- シングル ログアウト サービス (SAML 2.0)
- サインアウト サービス (WS フェデレーション)

フェデレーション Web サービス用のプロパティファイル

AffWebServices.properties ファイルには、フェデレーション Web サービスの初期化パラメータがすべて含まれます。FWS の展開に対して、WebAgent.conf ファイルの場所を指定するパラメータのみを設定します。他の設定については、デフォルト値を受け入れるか、必要に応じて値を変更します。

注: AffWebServices.properties ファイルは UTF-8 形式です。このファイルを変更する場合は、この形式をサポートしているエディタを使用してください。

設定項目は以下のとおりです。

AffWebServices.properties 設定	値
NotificationLibraryType	Web エージェントが通知アラートに使用するライブラリ タイプを指定します。 注: SPS フェデレーション ゲートウェイはこの設定をサポートしません。
NotificationLibraryDetails	Java クラス名または C ライブラリおよび関数名を示します。 注: SPS フェデレーション ゲートウェイはこの設定をサポートしません。
SMserverPort	プロデューサ プロセスのどのポリシー サーバが通知トンネル コールを処理するかを決定します。
AgentConfigLocation	WebAgent.conf ファイルの場所を示します。設定ファイルの場所を指定する必要があります。

AffWebServices.properties ファイルのインストール場所は以下のとおりです。

- Web またはアプリケーション サーバの場合
`web_agent_or_webagent_option_pack_home/affwebservices/WEB-INF/classes`
- SPS フェデレーション ゲートウェイの場合
`sps_home/secure-proxy/Tomcat/webapps/affwebservices/WEB-INF/classes`

`web_agent_home`

Web エージェントのインストール場所を示します。

`sps_home`

CA SiteMinder for Secure Proxy Server のインストール場所を示します。

FWS によって使用されるエージェント設定オブジェクトの設定

パートナーシップ フェデレーション の場合、Web エージェント オプションパックによってインストールされるフェデレーション Web サービス (FWS) は、以下のエージェント設定オブジェクトの設定をフェデレーション通信に使用します。 エージェント設定オブジェクトは 管理 UI で設定します。

各設定の説明については、「SiteMinder Web エージェント設定ガイド」を参照してください。

- defaultagentname
注: FWS アプリケーションは、agentname パラメータではなく defaultagentname パラメータの値を使用します。
- TransientIDCookies
- AcceptTPCookie
- TransientIPCheck
- CookieDomain
- CookieDomainScope
- SSOZoneName
- SSOTrustedZone
- UseSecureCookies

LoggerConfig.properties ファイルの設定

LoggerConfig.properties ファイルを使用すると、フェデレーション Web サービス アプリケーションが以下の情報を記録できるようにログ記録を有効にできます。

- アサーション取得
- セッション管理
- 通知アラート情報
- トレース メッセージ

ログ ファイルは、サイトがどのように構成されているかに応じたアサーティングパーティと依存パーティのアクティビティを示します。

注: LoggerConfig.properties ファイルは UTF-8 形式です。このファイルを変更する場合は、この形式をサポートしているエディタを使用してください。

LoggerConfig.properties ファイルのインストール場所は以下のとおりです。

- Web エージェントの場合
`web_agent_home/affwebservices/WEB-INF/classes`
- アプリケーション サーバの場合
`deployment_directory/affwebservices/WEB-INF/classes`
- SPS フェデレーション ゲートウェイの場合
`sps_home/secure-proxy/Tomcat/webapps/affwebservices/WEB-INF/classes`

web_agent_home

Web エージェントのインストール場所を示します。

deployment_directory

アプリケーション サーバに対するデフォルト展開ディレクトリを示します。

sps_home

CA SiteMinder for Secure Proxy Server のインストール場所を示します。

必要に応じて設定を変更します。値が指定されない場合、デフォルト ロケールのデフォルト値が使用されます。

以下の表は、LoggerConfig.properties ファイル内の設定を示しています。

LoggerConfig.properties 設定	説明
EnableDNSLookup	消費サイトで受信 SAML リクエストを処理する場合に DNS または逆 DNS 検索を実行するかどうかを FWS アプリケーションに命令します。Y または N を選択します。受信 SAML リクエストが消費サイトで受信された場合に、FWS はリクエスト元のホスト名を含めたリクエストの詳細をログ記録します。DNS 検索コールはホスト名を収集します。デフォルト動作は DNS 検索を実行します。このヘッダに対して N を選択すると、DNS 呼び出しは実行されず、代わりに IP アドレスがログ記録されます。
LoggingOn (必須)	ログ出力を有効にします。Y または N を選択します。
LocalFileName (必須)	ログ出力に使用するファイルに名前を付けます。
LogLocalTime	ログ メッセージ用のローカル時間の使用を有効にします。Y または N を選択します。
LogRollover	ロールオーバー機能のタイプを定義します。Y または N を選択し、LogSize または LogCount パラメータを定義します。
LogSize	ログ ファイルをサイズに基づいてロール オーバーする場合に最大ファイルサイズをメガバイトで指定します。
LogCount	ロール オーバーが有効な場合にどれだけのログ出力ファイルを残すか指定します。
TracingOn	トレース ログ出力を有効にします。Y または N を選択します。
TraceFileName	トレース ログ出力に使用するファイルに名前を付けます。
TraceConfig	トレース設定ファイルを指定します。詳細については、Trace Logging を参照してください。
TraceRollover	トレース用のロール オーバー機能のタイプを定義します。Y または N を選択し、次に TraceSize または TraceCount の値を指定します。

LoggerConfig.properties 設定	説明
TraceSize	トレース ログ ファイルをサイズに基づいてロールオーバーする場合に最大ファイル サイズをメガバイトで指定します。
TraceCount	ロールオーバーが有効な場合にどれだけのログ出力ファイルを残すか指定します。
TraceFormat	トレース出力ファイル形式を指定します (デフォルト、固定幅フィールド、区切り形式、XML)。
TraceDelim	トレース形式として固定幅フィールドを使用する場合に区切り文字として使用する文字を定義します。

さまざまなサーバへの FWS の展開の手順

Web エージェント オプションパックを使用している場合は、フェデレーション Web サービス (FWS) アプリケーションを展開します。

以下のいずれかのアプリケーション サーバを FWS で動作するように設定します。

- [フェデレーション Web サービスで動作するように ServletExec を設定します \(P. 31\)](#)。
- [フェデレーション Web サービスで動作するように WebLogic を設定します \(P. 38\)](#)。

- [フェデレーション Web サービスで動作するように WebSphere を設定します \(P. 47\)](#)。
- [フェデレーション Web サービスで動作するように JBOSS または Tomcat を設定します \(P. 55\)](#)。

SPS フェデレーション ゲートウェイを使用している場合、フェデレーション Web サービスがすでに埋め込み Tomcat サーバ上に展開されています。

注: フェデレーション Web サービスの再展開が以下のエラーで失敗する場合は、サーバを再起動します。

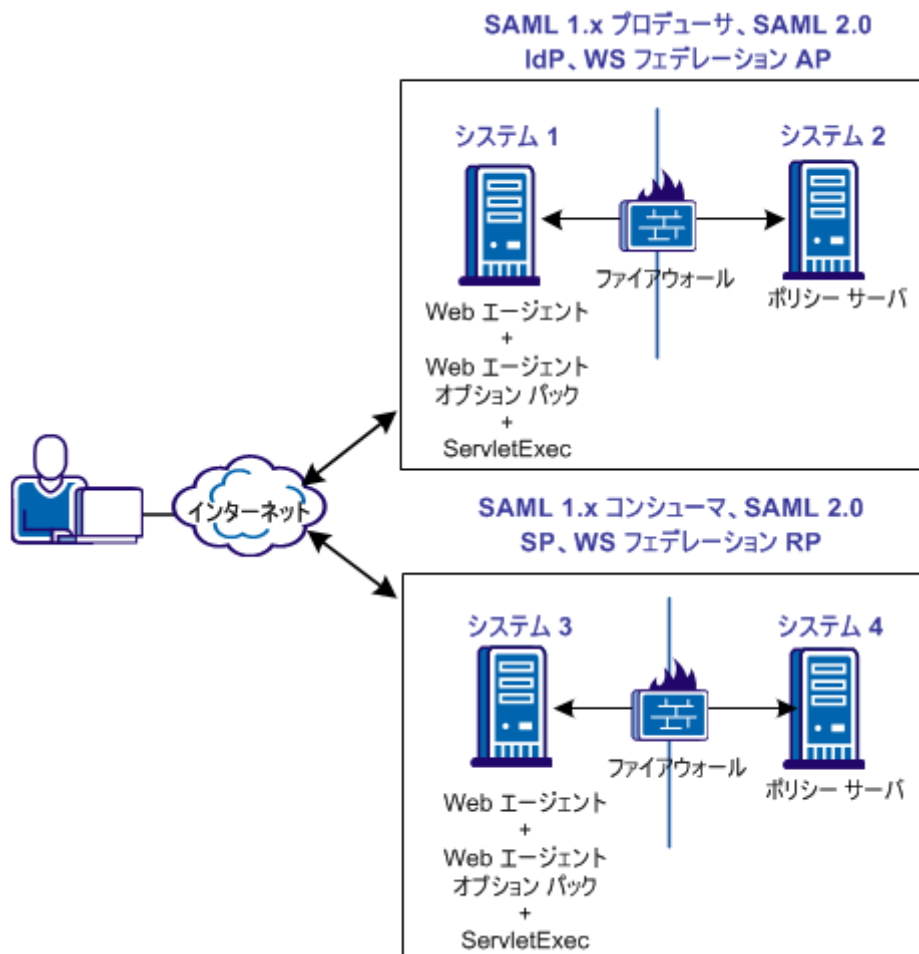
java.lang.UnsatisfiedLinkError: ネイティブ ライブラリ 'smerrlog.dll' は別のクラスローダ com.netegrity.smerrlog.SmLogException ですすでにロードされています: smerrlog をロードできませんでした。

フェデレーション Web サービスで動作するための ServletExec の設定

フェデレーション Web サービス (FWS) アプリケーションが ServletExec で機能するようにするには、フェデレーション Web サービスを ServletExec の Web アプリケーションとして配備します。アサートするパーティおよび依存するパーティで FWS アプリケーションを展開します。

注: SiteMinder 12.52 SP1 には ServletExec_AS_6_license_key.txt という名前の ServletExec ライセンス キー ファイルが付属しています。このライセンス キーがない場合は、[CA テクニカル サポート](#)にご連絡ください。このライセンス ファイルからライセンス キーをコピーし、ServletExec 管理コンソールの [ServletExec ライセンス] ダイアログ ボックスに入力します。ServletExec のライセンスの詳細については、New Atlanta Communication <http://www.newatlanta.com> Web サイトで ServletExec のドキュメントを参照してください。

以下の図は、SiteMinder および ServletExec のサンプル設定について示しています。ServletExec、Web エージェント オプション パック、および Web エージェントが同じサーバにインストールされます。ただし、このセットアップは必須ではありません。



重要: ServletExec 用の最新のホットフィックスを適用します。フェデレーション Web サービスは、これらのホットフィックスが ServletExec で動作することを必要とします。ホットフィックスを取得するには、[エラー!ハイパーリンクの参照に誤りがあります。](#) Web サイトに移動します。

次の手順に従ってください:

1. ServletExec 管理コンソールを開きます。
2. [Web アプリケーション] の下で、[管理] を選択します。
[Web アプリケーションの管理] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [Web アプリケーションの追加] をクリックします。
4. 以下の情報を入力します。
 - a. アプリケーション名 : `affwebservice`
 - b. URL コンテキストパス : `/affwebservice/`
 - c. 場所 : `affwebservice_home`例 :
`C:¥program files¥ca¥webagent¥affwebservice`
5. [サブミット] をクリックします。
6. ServletExec コンソールを終了します。

UNIX オペレーティング環境上の環境スクリプトの用意

UNIX システムに Web エージェント オプションパックをインストールした後、インストールプログラムは環境スクリプト (`ca-wa-opack-env.sh`) を作成します。

アプリケーションサーバのライブラリパスが Web エージェント オプションパックの `/bin` ディレクトリの位置を指すように、環境スクリプトを用意します。

コマンドラインで以下のコマンドを入力してスクリプトを用意します

```
.. /ca-wa-opack-env.sh
```

正しいライブラリパスを設定すると、オプションパックおよび Web またはアプリケーションサーバが共に機能するのに役立ちます。

スクリプトを取得した後で、ライブラリパスが設定されます。ライブラリパスの変数名はオペレーティングシステムによって異なります。いくつかのライブラリパスの例

Solaris/Linux

```
LD_LIBRARY_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

HP-UX

```
SHLIB_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

AIX

```
LIBPATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

重要: アプリケーションサーバ起動スクリプトはライブラリパスをリセットできます。**Web** エージェントオプションパックへのパスが、パス内の最初のエン트리であることを確認します。

Web エージェントオプションパックの環境スクリプトへのパスは以下のいずれかの場所をポイントします。

- **Web** エージェントのインストールディレクトリ。デフォルトの場所は次のとおりです：`/webagent_option_pack_home/bin`。
- **Web** エージェントのインストールディレクトリ。

オプションパックを **Web** エージェントと同じシステムにインストールする場合、スクリプトは **Web** エージェントディレクトリに存在します。**UNIX** インストールでは、デフォルトの場所は常に `/web_agent_home/bin` です。

ServletExec 展開用の FWS プロパティファイルの変更

AffWebServices.properties ファイルには、フェデレーション Web サービスの初期化パラメータがすべて含まれます。FWS の展開に対して、WebAgent.conf ファイルの場所を指定するパラメータのみを設定します。

AffWebServices.properties ファイルを設定する方法

1. AffWebServices.properties ファイルに移動します。ServletExec では、`web_agent_home/affwebservices/WEB-INF/classes` に移動します。
2. AgentConfigLocation パラメータを各パートナー サイトの WebAgent.conf ファイルの場所に設定します。
 - Windows の例：
`C:\Program Files\ca\webagent\bin\IIS\WebAgent.conf`
注：フェデレーション Web サービスは Java コンポーネントです。したがって、Windows パスにはダブルバックスラッシュが含まれる必要があります。
 - UNIX の例：
`server_home/servers/https-hostname/config/WebAgent.conf`
 - SPS フェデレーション ゲートウェイでの Windows 例
`sps_home\proxy-engine\conf\defaultagent\WebAgent.conf`
 - SPS フェデレーション ゲートウェイでの UNIX 例
`sps_home/proxy-engine/conf/defaultagent/WebAgent.conf`
3. Web エージェント オプション パックがインストールされている各アプリケーション サーバに対してこの手順を繰り返します。
4. 残りの設定に対してデフォルト値を受け入れます。

IIS ファイル システムに書き込む ServletExec の有効化

IIS サーバ ユーザ アカウントには、IIS がプラグインによるファイル システムへの書き込みを許可するための適切な権限が必要です。ServletExec がフェデレーション ログ ファイルに書き込むためには、ServletExec と関連付けられる匿名 ユーザ アカウントがファイル システムに対する書き込み権限を持っている必要があります。

次の手順に従ってください:

1. ServletExec がインストールされているシステム上の IIS Internet Information Services Manager を開きます。
2. [Web サイト]、[デフォルト Web サイト] に移動します。
一連のアプリケーションが右ペインに表示されます。
3. [ServletExec] を選択し、[プロパティ] を右クリックします。
4. [プロパティ] ダイアログ ボックスで [ディレクトリ セキュリティ] タブを選択します。
5. [認証およびアクセス制御] セクションで [編集] をクリックします。
[認証方法] ダイアログ ボックスが開きます。
6. 制御を以下のように設定します。
 - a. [匿名ユーザアクセスの有効化] を選択します。
匿名アクセスについては、Windows ファイル システムの権限の許可を持つユーザ アカウントの名前およびパスワードを入力します。ユーザ アカウントにこの権限を付与するには、Windows のドキュメントを参照してください。たとえば、匿名アクセスに対して IUSR インターネット ゲスト アカウントを使用することができます。
 - b. [基本認証] をクリアします。
 - c. [統合 Windows 認証] をクリアします。
7. 入力を指示された場合、セキュリティ変更を Web サーバのすべての子コンポーネントに適用します。
8. Web サーバを再起動します。

ServletExec に関連付けられるユーザ アカウントは現在、IIS ファイル システムに書き込むことができます。

次の手順に従ってください:

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [ローカル セキュリティ ポリシー] - [ローカル ポリシー] - [ユーザ権限割り当て] を開きます。
[ローカル セキュリティ設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [オペレーティング システムの一部として機能] をダブルクリックします。
[オペレーティング システムの一部として機能] プロパティ ダイアログが開きます。

3. [ローカルセキュリティ設定] ダイアログ ボックスに匿名のユーザアカウントを追加します。
4. [OK] をクリックします。
5. コントロールパネルを終了します。

オプションで、IIS Web サーバを保護する Web エージェントのエージェント設定オブジェクトを確認することを強くお勧めします。このオブジェクトは、匿名のユーザによるファイルシステムへの書き込み防止に関して SetRemoteUser パラメータが[yes]に設定されていることを確認します。

IIS デフォルト Web サイトが存在することの確認

Web エージェントは、適切なインストールのために IIS Web サーバがデフォルトの Web サイトを持つことを必要とします。デフォルト Web サイトは、IIS Web サーバで自動的にインストールされます。この Web サイトが存在しない場合は、IIS 上の異なる Web サイトに SiteMinder 仮想ディレクトリをインストールします。IIS 上の別の Web サイトに SiteMinder 仮想ディレクトリをインストールするには、Metabase を編集します。

サイト上の技術注記は、必要な[テクニカルサポートサイト](#)変更を説明します。注記を参照する方法

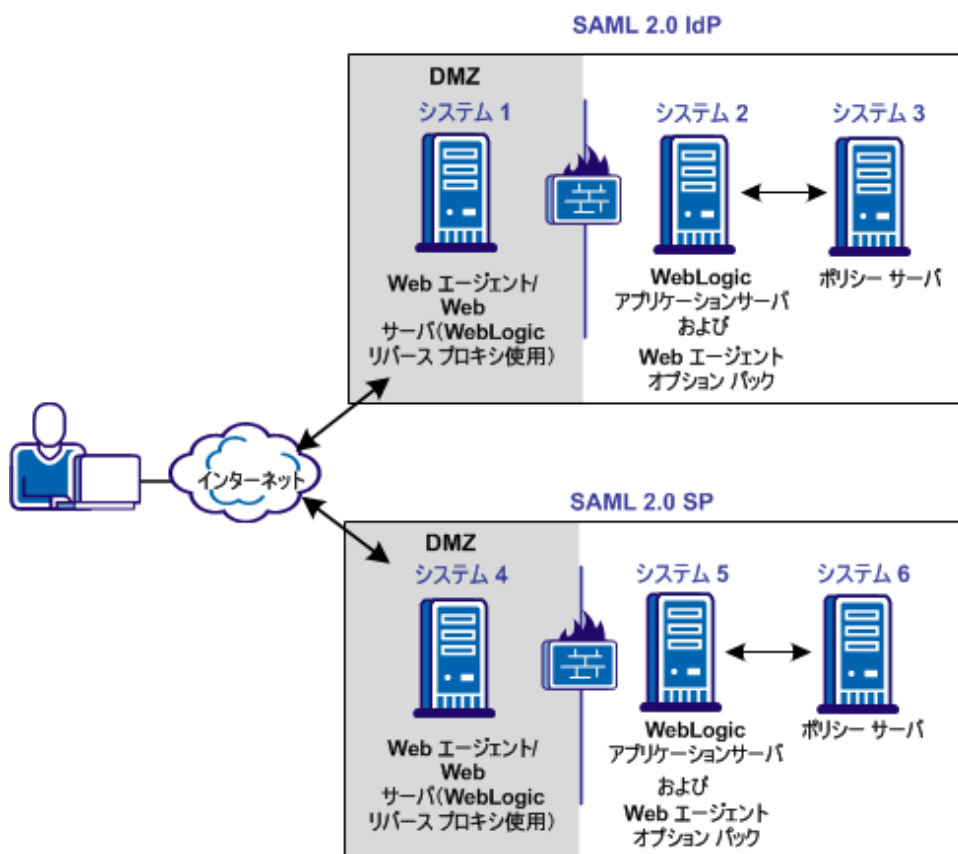
1. メインの [サポート] ページに移動します。
2. [文書]、[技術注記] を選択します。
3. 「METABASE -3 Error」というタイトルのドキュメントを選択します。ドキュメントは、アルファベット順に一覧表示されます。

フェデレーション Web サービスで動作するための WebLogic の設定

SiteMinder/WebLogic 設定に対してフェデレーション Web サービス (FWS) を有効にするには、FWS アプリケーションを展開します。

注: サポートされている WebLogic バージョンのリストについては、テクニカルサポートサイトの SiteMinder 12.52 SP1 プラットフォームのサポートマトリックスを参照してください。

以下の図では、SiteMinder および WebLogic サンプル設定が示されています。この図は、サンプルのフェデレーション環境での FWS の使用方法の例を示しています。



この環境で、システム 2 およびシステム 5 上に FWS アプリケーションを展開します。

重要: アサートするパーティおよび依存するパーティで Web エージェント用の展開手順を完了します。

図内のソフトウェア コンポーネントをシステムにインストールした後に、FWS アプリケーションを展開します。アサーティングパーティ用にシステム 2、依存するパーティ用にシステム 5 でアプリケーションを展開します。

FWS アプリケーションを展開する方法

1. LD_LIBRARY_PATH 変数の設定
2. SmHost.conf ファイルの作成
3. WebAgent.conf ファイルの作成
4. AffWebServices.properties ファイルの変更
5. WebLogic リバース プロキシ プラグインの設定
6. WebLogic 上の FWS アプリケーションの展開

重要: WebLogic サーバで FWS アプリケーションが動作するには、WEB-INF ディレクトリ内の weblogic.xml ファイルを確認します。weblogic.xml ファイル内の prefer-web-inf-classes パラメータが true に設定されることを確認します。

weblogic.xml ファイルの確認に関する指示については「[WebLogic での FWS アプリケーションの展開 \(P. 45\)](#)」を参照してください。

UNIX オペレーティング環境上の環境スクリプトの用意

UNIX システムに Web エージェント オプションパックをインストールした後、インストールプログラムは環境スクリプト (`ca-wa-opack-env.sh`) を作成します。

アプリケーションサーバのライブラリパスが Web エージェント オプションパックの `/bin` ディレクトリの位置を指すように、環境スクリプトを用意します。

コマンドラインで以下のコマンドを入力してスクリプトを用意します

```
./ca-wa-opack-env.sh
```

正しいライブラリパスを設定すると、オプションパックおよび Web またはアプリケーションサーバが共に機能するのに役立ちます。

スクリプトを取得した後で、ライブラリパスが設定されます。ライブラリパスの変数名はオペレーティングシステムによって異なります。いくつかのライブラリパスの例

Solaris/Linux

```
LD_LIBRARY_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

HP-UX

```
SHLIB_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

AIX

```
LIBPATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

重要: アプリケーションサーバ起動スクリプトはライブラリパスをリセットできます。Web エージェント オプションパックへのパスが、パス内の最初のエン트리であることを確認します。

Web エージェント オプションパックの環境スクリプトへのパスは以下のいずれかの場所をポイントします。

- Web エージェントのインストールディレクトリ。デフォルトの場所は次のとおりです： `/webagent_option_pack_home/bin`。
- Web エージェントのインストールディレクトリ。

オプションパックを Web エージェントと同じシステムにインストールする場合、スクリプトは Web エージェントディレクトリに存在します。UNIX インストールでは、デフォルトの場所は常に `/web_agent_home/bin` です。

SmHost.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは SmHost.conf ファイルを必要とします。ただし、Web エージェント オプションパックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

SmHost.conf を作成する方法

1. ディレクトリ `/webagent_option_pack_home/bin` に移動します。
2. `smreghost.exe` を実行します。

`smreghost.exe` の実行に関する指示については、「Web エージェントインストールガイド」を参照してください。

3. システム 2 および 5 上の以下のディレクトリに SmHost.conf ファイルを置きます。

`/webagent_option_pack_home/config`

WebAgent.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは **WebAgent.conf** ファイルが必要です。ただし、**Web** エージェント オプション パックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

WebAgent.conf ファイルを作成する方法

1. System 2 および System 5 の以下のディレクトリに System 1 から **WebAgent.conf** ファイルをコピーします。

```
/webagent_option_pack_home/config
```

```
webagent_option_pack_home
```

システム 2 またはシステム 5 上の **Web** エージェント オプション パックのインストール場所を定義します。

2. **WebAgent.conf** ファイルを以下のように変更します。
 - a. **EnableWebAgent** パラメータを **[YES]** に設定します。
 - b. 他の設定パラメータを **FWS** に適するように変更します。

以下は、FWS アプリケーション用の **WebAgent.conf** ファイルの例です。

```
# WebAgent.conf - configuration file for the Federation Web Services Application
#agentname="agent_name, IP_address"
HostConfigFile="/webagent_option_pack/config/SmHost.conf"
AgentConfigObject="agent_config_object_name"
EnableWebAgent="YES"
```

FWS プロパティファイルの変更

AffWebServices.properties ファイルには、フェデレーション Web サービスの初期化パラメータがすべて含まれます。FWS の展開に対して、WebAgent.conf ファイルの場所を指定するパラメータのみを設定します。

次の手順に従ってください:

1. AffWebServices.properties ファイルに移動します。このファイルは、以下のディレクトリにあります。

`web_agent_optionpack_home/affwebservices/WEB-INF/classes`

2. AgentConfigLocation パラメータを各パートナー サイトの WebAgent.conf ファイルの場所に設定します。

- Windows の例 :

`C:¥¥Program
Files¥¥CA¥¥webagent_optionpack¥¥config¥¥WebAgent.conf`

注: フェデレーション Web サービスは Java コンポーネントです。したがって、Windows パスにはダブルバックスラッシュが含まれる必要があります。

- UNIX の例 :

`web_agent_optionpack_home/config/WebAgent.conf`

- SPS フェデレーション ゲートウェイでの Windows 例

`sps_home¥¥proxy-engine¥¥conf¥¥defaultagent¥¥WebAgent.conf`

- SPS フェデレーション ゲートウェイでの UNIX 例

`sps_home/proxy-engine/conf/defaultagent/WebAgent.conf`

3. Web エージェント オプション パックがインストールされている各アプリケーション サーバに対してこの手順を繰り返します。
4. プロパティ ファイルの残りの設定ではデフォルト値を使用します。

WebLogic リバース プロキシ プラグインを設定する

WebLogic リバース プロキシ プラグインを設定するには、以下を実行します。

1. システム 1 で、Apache Web サーバ上の WebLogic リバース プロキシ プラグインを設定します。

詳細については、WebLogic のドキュメントを参照してください。

2. Web サーバの設定ファイルに以下のエイリアスを追加します。

この例では Apache httpd.conf ファイルを使用します。

```
<IfModule mod_weblogic.c>
WebLogicHost <WebLogic_Machine_IP_Address>
WebLogicPort <WebLogic_Machine_Port_Number>
</IfModule>
```

```
<Location /affwebservices>
SetHandler weblogic-handler
Debug ALL
</Location>
```

WebLogic 上の FWS アプリケーションの展開

システム 2 および システム 5 上で FWS アプリケーションを展開します。

重要: WebLogic サーバで FWS アプリケーションが動作するには、WEB-INF ディレクトリ内の `weblogic.xml` ファイルを確認します。
`prefer-web-inf-classes` パラメータが `true` に設定されていることを確認します。

`weblogic.xml` ファイルはディレクトリ `webagent¥affwebservices¥WEB-INF` に置かれています。

以下のコード抜粋は、`prefer-web-inf-classes` パラメータを設定する方法について説明しています。

```
<weblogic-web-app>
  <container-descriptor>
    <prefer-web-inf-classes>true</prefer-web-inf-classes>
  </container-descriptor>
</weblogic-web-app>
```

さらに、以下に示されているように、`precompile` パラメータが `true` に設定されていることを確認します。

```
<jsp-descriptor>
  <precompile>true</precompile>
</jsp-descriptor>
```

次の手順に従ってください:

1. WebLogic サーバ コンソールを使用して FWS を展開します。FWS アプリケーションが以下の場所にインストールされます。

`/webagent_option_pack_home/affwebservices/`

Web アプリケーションの展開についての詳細は、WebLogic ドキュメントを参照してください。

2. FWS アプリケーションが動作していることをテストします。Web ブラウザを開き、以下を入力します。

`http://fqhn:port_number/affwebservices/assertionretriever`

`fqhn`

完全修飾ホスト名を定義します。

`port_number`

フェデレーション Web サービス アプリケーションがインストールされているサーバのポート番号を定義します。

例 :

`http://myhost.ca.com:81/affwebservices/assertionretriever`

フェデレーション Web サービスが正しく作動している場合、次のメッセージが表示されます。

アサーション取得サービスは正常に初期化されました。(Assertion Retrieval Service has been successfully initialized.)

リクエストされたサーブレットは、HTTP POST リクエストのみを受け付けます。(The requested servlet accepts only HTTP POST requests.)

このメッセージは、フェデレーション Web サービスがデータ アクティビティをリスニングしていることを示します。FWS アプリケーションは現在、WebLogic サーバに対して展開されています。

フェデレーション Web サービスが正しく動作していない場合、アサーション取得サービスが失敗したことを示すメッセージが表示されます。サービスが失敗する場合は、フェデレーション Web サービス ログを確認します。

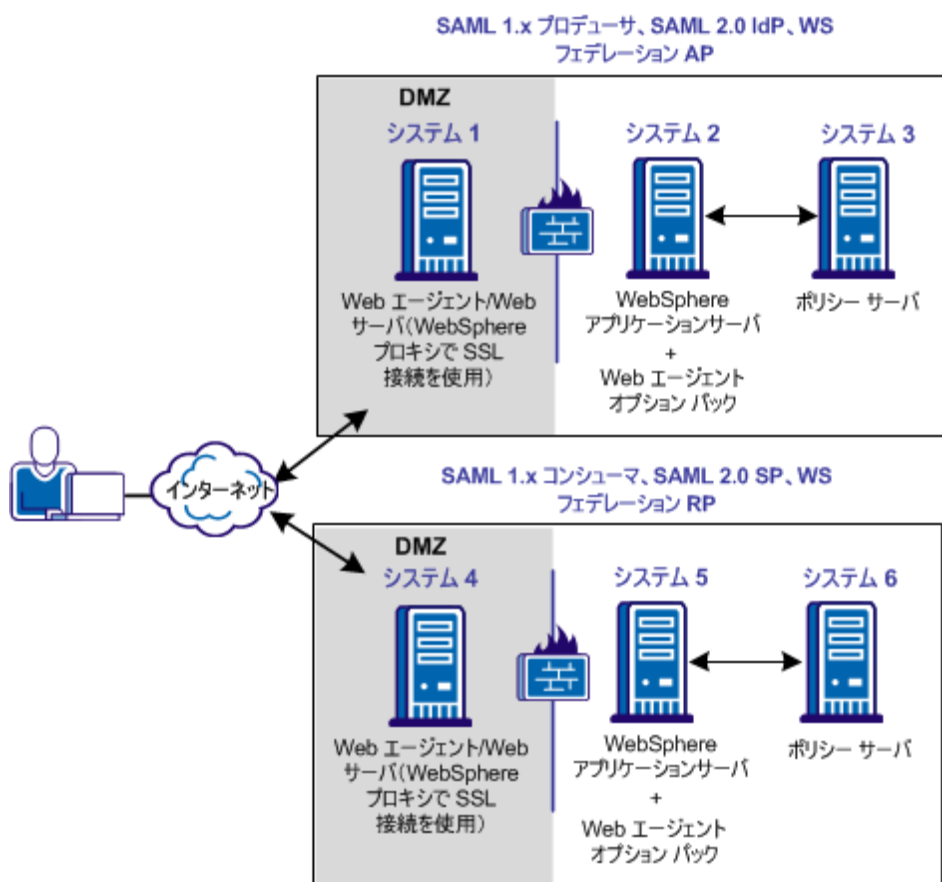
注: FWS アプリケーションに対してトレース ログ記録を有効にする指示については、「トレース ログ記録」を参照してください。

フェデレーション Web サービスで動作するための WebSphere の設定

フェデレーション環境で SiteMinder/WebSphere アプリケーションサーバ (WAS) 設定に対して FWS を有効化するには、FWS アプリケーションを展開します。

システム 2 および 5 で FWS を展開します。必要に応じて、これらのシステムには WAS および関連する WAS フィックス パックも必要です。システム 1 および 4 で、Web エージェントおよび WAS プロキシプラグインをインストールします。プロキシおよび WAS 間の SSL を有効にします。

以下の図では、SiteMinder および WebSphere サンプル設定が示されています。



前提条件

- WebSphere アプリケーション サーバがインストールされているシステムに WAS をインストールします。
- アサートするパーティおよび依存するパーティで Web エージェント用の展開手順を完了します。

図のシステム上にソフトウェア コンポーネントをインストールした後、以下の手順を使用してシステム 2 およびシステム 5 上に FWS を配備します。

1. WebSphere LD_LIBRARY_PATH 変数を設定します。
2. SmHost.conf ファイルを作成します。
3. WebAgent.conf ファイルを作成します。
4. AffWebServices.properties ファイルを変更します。
5. WebSphere にオプション パック ライブラリ ファイルをコピーします。
6. WebSphere にフェデレーション Web サービス WAR ファイルを展開します

UNIX オペレーティング環境上の環境スクリプトの用意

UNIX システムに Web エージェント オプションパックをインストールした後、インストールプログラムは環境スクリプト (ca-wa-opack-env.sh) を作成します。

アプリケーション サーバのライブラリ パスが Web エージェント オプションパックの /bin ディレクトリの位置を指すように、環境スクリプトを用意します。

コマンドラインで以下のコマンドを入力してスクリプトを用意します

```
./ca-wa-opack-env.sh
```

正しいライブラリ パスを設定すると、オプション パックおよび Web またはアプリケーション サーバが共に機能するのに役立ちます。

スクリプトを取得した後で、ライブラリパスが設定されます。ライブラリパスの変数名はオペレーティングシステムによって異なります。いくつかのライブラリパスの例

Solaris/Linux

```
LD_LIBRARY_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

HP-UX

```
SHLIB_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

AIX

```
LIBPATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

重要: アプリケーションサーバ起動スクリプトはライブラリパスをリセットできます。Web エージェント オプションパックへのパスが、パス内の最初のエン트리であることを確認します。

Web エージェント オプションパックの環境スクリプトへのパスは以下のいずれかの場所をポイントします。

- Web エージェントのインストールディレクトリ。デフォルトの場所は次のとおりです： `/webagent_option_pack_home/bin`。
- Web エージェントのインストールディレクトリ。

オプションパックを Web エージェントと同じシステムにインストールする場合、スクリプトは Web エージェントディレクトリに存在します。UNIX インストールでは、デフォルトの場所は常に `/web_agent_home/bin` です。

SmHost.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは SmHost.conf ファイルが必要です。ただし、Web エージェント オプションパックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

SmHost.conf ファイルを作成する方法

1. 以下のディレクトリに置かれる `smregghost.exe` を実行することにより、SmHost.conf ファイルを作成します。

```
/webagent_option_pack_home/bin
```

2. システム 2 およびシステム 5 上の以下のディレクトリに SmHost.conf ファイルを置きます。

```
/webagent_option_pack_home/config
```

WebAgent.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは WebAgent.conf ファイルを必要とします。ただし、Web エージェント オプション パックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

WebAgent.conf ファイルを作成する方法

1. System 2 および System 5 の以下のディレクトリに System 1 から WebAgent.conf ファイルをコピーします。

`/webagent_option_pack_home/config`

説明

`webagent_option_pack_home`

は、System 2 および System 5 上の Web エージェント オプション パックのインストール場所を定義します。

2. WebAgent.conf ファイルを以下のように変更します。
 - a. EnableWebAgent パラメータを [YES] に設定します。
 - b. 他の設定パラメータも FWS アプリケーション用の環境に適するように変更します。

以下は、FWS アプリケーション用の WebAgent.conf ファイルの例です。

```
# WebAgent.conf - configuration file for the Federation Web Services Application
#agentname="<agent_name>, <IP_address>"
HostConfigFile="/<webagent_option_pack>/config/SmHost.conf"
AgentConfigObject="<agent_config_object_name>"
EnableWebAgent="YES"
```

FWS プロパティファイルの変更

AffWebServices.properties ファイルには、フェデレーション Web サービスの初期化パラメータがすべて含まれます。FWS の展開に対して、WebAgent.conf ファイルの場所を指定するパラメータのみを設定します。

次の手順に従ってください:

1. AffWebServices.properties ファイルに移動します。このファイルは、以下のディレクトリにあります。

`web_agent_optionpack_home/affwebservices/WEB-INF/classes`

2. AgentConfigLocation パラメータを各パートナー サイトの WebAgent.conf ファイルの場所に設定します。

- Windows の例 :

`C:\¥¥Program
Files¥¥CA¥¥webagent_optionpack¥¥config¥¥WebAgent.conf`

注: フェデレーション Web サービスは Java コンポーネントです。したがって、Windows パスにはダブルバックスラッシュが含まれる必要があります。

- UNIX の例 :

`web_agent_optionpack_home/config/WebAgent.conf`

- SPS フェデレーション ゲートウェイでの Windows 例

`sps_home¥¥proxy-engine¥¥conf¥¥defaultagent¥¥WebAgent.conf`

- SPS フェデレーション ゲートウェイでの UNIX 例

`sps_home/proxy-engine/conf/defaultagent/WebAgent.conf`

3. Web エージェント オプション パックがインストールされている各アプリケーション サーバに対してこの手順を繰り返します。
4. プロパティ ファイルの残りの設定ではデフォルト値を使用します。

WebSphere への Web エージェント オプション パック ライブラリのコピー

Web エージェント オプション パック ライブラリ ファイルをシステム 2 およびシステム 5 にコピーします。

次の手順に従ってください:

1. ディレクトリ `¥webagent_option_pack¥bin` から以下のファイルをコピーします
 - smcommonutil.dll
 - smerrlog.dll
 - smfedclientcomponent.dll
 - smjavaagentapi.dll
 - smi18n
 - SmXlate
 - icuuc49
 - icudt49
 - icuin49
2. コピーされたライブラリを以下のディレクトリに置きます。
`¥WebSphere_home¥AppServer¥bin`

WebSphere でフェデレーション Web サービス WAR ファイルを展開します

FWS WAR ファイルの展開方法

1. フェデレーション Web サービス アプリケーションの WAR ファイルを作成します。アプリケーションが以下の場所にインストールされます。
`¥webagent_option_pack¥affwebservices¥`
WAR ファイルを作成する詳細については、WebSphere ドキュメントを参照してください。
2. WebSphere 管理コンソールを使用して WAR ファイルを展開します。
詳細については、WebSphere のドキュメントを参照してください。
重要: affwebservices ディレクトリ内の任意のプロパティ ファイルに続けて変更を加えるには、WAR ファイルを再作成し、このファイルをアプリケーション サーバ内で再配備します。

3. WebSphere 管理コンソールから、[アプリケーション]、[企業アプリケーション] に移動します。
4. たとえば `affwebservices_war` など Web サービス WAR ファイルの名前を選択します。
5. 設定タブ上で以下を実行します。

- a. Classloader モードを設定します。

クラスロードには、2つのモードを使用できます。

- 親クラスローダがまずロードされるクラス (デフォルト)
- ローカルクラスローダがまずロードされるクラス

選択するモードは、実装によって異なります。7.0 より前のリリースでは、これらのモードはそれぞれ「PARENT_FIRST」および「PARENT_LAST」という名前でした。詳細については、WebSphere のドキュメントを参照してください。

- b. [WAR クラスローダポリシー] を [アプリケーション] に設定します。
- c. 設定を保存します。

6. Web ブラウザを開き、以下を入力することで、フェデレーション Web サービスアプリケーションが動作していることをテストします。

`http://fqhn:port_number/affwebservices/assertionretriever`

説明

fqhn

完全修飾ホスト名を定義します。

port_number

フェデレーション Web サービスアプリケーションがインストールされているサーバのポート番号を定義します。

例：

`http://myhost.ca.com:81/affwebservices/assertionretriever`

フェデレーション Web サービスが正しく作動している場合、次のメッセージが表示されます。

アサーション取得サービスは正常に初期化されました。(Assertion Retrieval Service has been successfully initialized.)

リクエストされたサーブレットは、HTTP POST リクエストのみを受け付けます。(The requested servlet accepts only HTTP POST requests.)

このメッセージは、フェデレーション Web サービスがデータ アクティビティをリスニングしていることを示します。

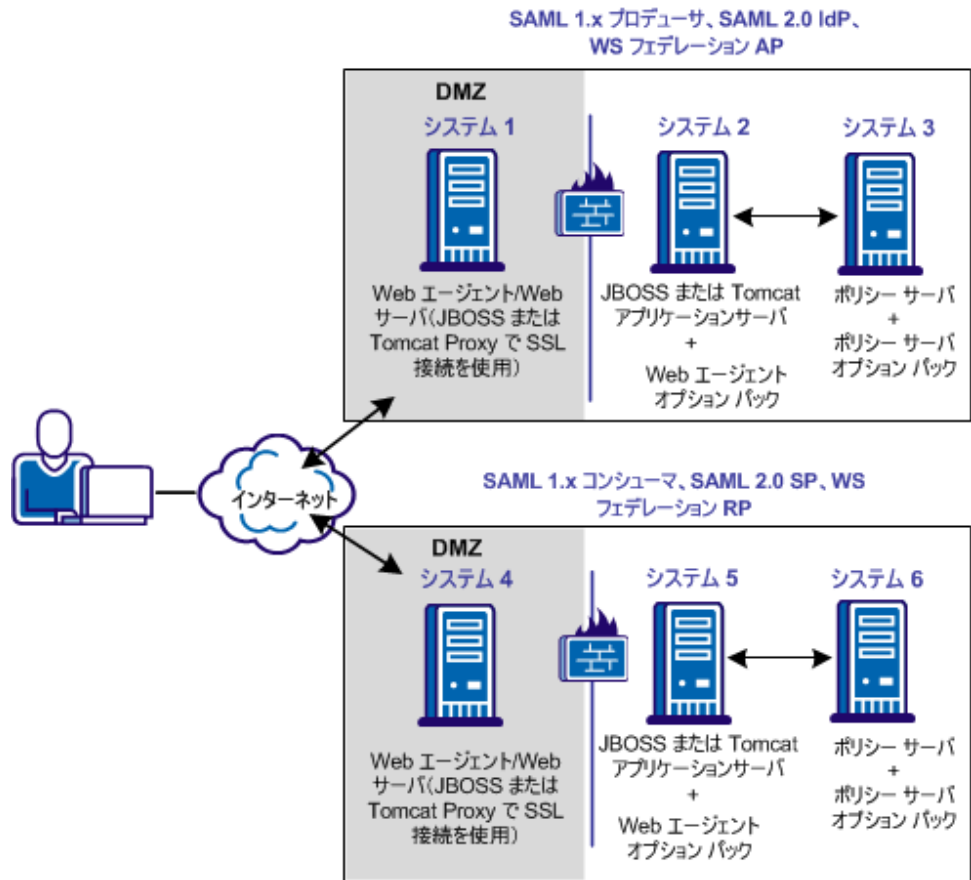
フェデレーション Web サービスが正しく動作していない場合、アサーション取得サービスが失敗したことを示すメッセージが表示されます。アサーション取得サービスが失敗した場合、フェデレーション Web サービス ログを確認します。

注: FWS アプリケーションに対してトレース ログ記録を有効にする方法については、「トレース ログ記録」を参照してください。

フェデレーション Web サービスで動作するための JBOSS または Tomcat の設定

SiteMinder フェデレーション環境で JBoss または Tomcat アプリケーションサーバを使用するには、アプリケーションサーバ上で FWS アプリケーションを配備します。

以下の図は、JBoss または Tomcat での展開について示しています。システム 1 および 4 で、Web エージェントは JBOSS またはプロキシサポートのために Tomcat コネクタでインストールされます。SSL はプロキシおよびアプリケーションサーバの間で有効になります。システム 2 および 5 では、Web エージェント オプションパックを使用して FWS がアプリケーションサーバに展開されます。



FWS を展開するプロセスを以下に示します。

1. UNIX オペレーティング環境で、`source` コマンドを使用して環境設定スクリプトを実行します。
2. `SmHost.conf` ファイルを作成します。
3. `WebAgent.conf` ファイルを作成します。
4. `AffWebServices.properties` ファイルを変更します。
5. アプリケーションサーバで `FWS WAR` ファイルを展開します。

以下のセクションでは、プロセスの各手順の詳細について説明します。

UNIX オペレーティング環境上の環境スクリプトの用意

UNIX システムに `Web` エージェント オプションパックをインストールした後、インストールプログラムは環境スクリプト (`ca-wa-opack-env.sh`) を作成します。

アプリケーションサーバのライブラリパスが `Web` エージェント オプションパックの `/bin` ディレクトリの位置を指すように、環境スクリプトを用意します。

コマンドラインで以下のコマンドを入力してスクリプトを用意します

```
./ca-wa-opack-env.sh
```

正しいライブラリパスを設定すると、オプションパックおよび `Web` またはアプリケーションサーバが共に機能するのに役立ちます。

スクリプトを取得した後で、ライブラリパスが設定されます。ライブラリパスの変数名はオペレーティングシステムによって異なります。いくつかのライブラリパスの例

Solaris/Linux

```
LD_LIBRARY_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

HP-UX

```
SHLIB_PATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

AIX

```
LIBPATH=/webagent_option_pack_home/bin
```

重要: アプリケーションサーバ起動スクリプトはライブラリパスをリセットできます。Web エージェント オプションパックへのパスが、パス内の最初のエン트리であることを確認します。

Web エージェント オプションパックの環境スクリプトへのパスは以下のいずれかの場所をポイントします。

- Web エージェントのインストールディレクトリ。デフォルトの場所は次のとおりです： `/webagent_option_pack_home/bin`。
- Web エージェントのインストールディレクトリ。

オプションパックを Web エージェントと同じシステムにインストールする場合、スクリプトは Web エージェントディレクトリに存在します。UNIX インストールでは、デフォルトの場所は常に `/web_agent_home/bin` です。

SmHost.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは SmHost.conf ファイルが必要です。ただし、Web エージェント オプションパックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

1. 以下のディレクトリに置かれる `smreghost.exe` を実行することにより、SmHost.conf ファイルを作成します。

```
/webagent_option_pack/bin
```

2. システム 2 およびシステム 5 上の以下のディレクトリに SmHost.conf ファイルを置きます。

```
/webagent_option_pack/config
```

WebAgent.conf ファイルの作成

FWS アプリケーションは **WebAgent.conf** ファイルが必要です。ただし、**Web** エージェント オプション パックはこのファイルをインストールしないため、ユーザが作成する必要があります。

1. **System 2** および **System 5** の以下のディレクトリに **System 1** から **WebAgent.conf** ファイルをコピーします。

/webagent_option_pack/config

説明

webagent_option_pack

System 2 および **System 5** 上の **Web** エージェント オプション パックのインストール場所を定義します。

2. **WebAgent.conf** ファイルを次のように変更します。
 - a. **EnableWebAgent** パラメータを [YES] に設定します。
 - b. 他の設定パラメータも **FWS** アプリケーション用の環境に適するように変更します。

以下は、**FWS** アプリケーション用の **WebAgent.conf** ファイルの例です。

```
# WebAgent.conf - configuration file for the Federation Web Services Application
#agentname="agent_name, IP_address"
HostConfigFile="/webagent_option_pack_home/config/SmHost.conf"
AgentConfigObject="agent_config_object_name"
EnableWebAgent="YES"
```

FWS プロパティファイルの変更

AffWebServices.properties ファイルには、フェデレーション Web サービスの初期化パラメータがすべて含まれます。FWS の展開に対して、WebAgent.conf ファイルの場所を指定するパラメータのみを設定します。

次の手順に従ってください:

1. AffWebServices.properties ファイルに移動します。このファイルは、以下のディレクトリにあります。

`web_agent_optionpack_home/affwebservices/WEB-INF/classes`

2. AgentConfigLocation パラメータを各パートナー サイトの WebAgent.conf ファイルの場所に設定します。

- Windows の例 :

```
C:\Program Files\CA\webagent_optionpack\config\WebAgent.conf
```

注: フェデレーション Web サービスは Java コンポーネントです。したがって、Windows パスにはダブルバックスラッシュが含まれる必要があります。

- UNIX の例 :

```
web_agent_optionpack_home/config/WebAgent.conf
```

- SPS フェデレーションゲートウェイでの Windows 例

```
sps_home\proxy-engine\conf\defaultagent\WebAgent.conf
```

- SPS フェデレーションゲートウェイでの UNIX 例

```
sps_home/proxy-engine/conf/defaultagent/WebAgent.conf
```

3. Web エージェントオプションパックがインストールされている各アプリケーションサーバに対してこの手順を繰り返します。
4. プロパティファイルの残りの設定ではデフォルト値を使用します。

JBoss での展開の前提条件の完了(オプション)

JBoss 6.1 の場合、FWS を展開するには 2 つの前提条件があります。デフォルトでは `affwebservices war` ファイルの展開に失敗するため、この手順が必要です。

`affwebservices war` ファイルを展開する方法

1. `affwebservices` 展開記述子ファイルを更新します。
2. `module.xml` ファイルを作成します。

JBoss 6.1 を使用しない場合は、[FWS WAR ファイルの展開 \(JBoss または Tomcat\)](#) (P. 62)に進みます。

`affwebservices` 展開記述子ファイルの更新

若干の `<context-param>` エントリを追加するために、`affwebservices` 展開記述子を編集します。

次の手順に従ってください:

1. `affwebservices` 展開記述子ファイル (`webagent_option_pack/affwebservices/WEB-INF/web.xml`) をテキストエディタで開きます。
2. `<web-app>` タグの後および `<servlet>` タグの前に以下の行を追加します。

```
<context-param>
<param-name>resteasy.scan</param-name>
<param-value>>false</param-value>
</context-param>
<context-param>
<param-name>resteasy.scan.resources</param-name>
<param-value>>false</param-value>
</context-param>
<context-param>
<param-name>resteasy.scan.providers</param-name>
<param-value>>false</param-value>
</context-param>
```

3. 保存して、テキストエディタを終了します。

module.xml ファイルの作成

war ファイルを展開するには、JBoss コンテナ内にディレクトリを作成し、jar ファイルを関連付けて、jar ファイルを記述する module.xml ファイルを作成します。

次の手順に従ってください:

1. <JBASS- HOME>¥modules の下に、以下のようにディレクトリ構造を作成します。

```
com¥rsa¥cryptoj¥main
```

2. 以下の場所から cryptoj.jar、certj.jar および sslj.jar ファイルをコピーします。

```
<NETE_WA_ROOT>¥affwebservices¥WEB-INF¥lib¥
```

変更後

```
<JBASS-HOME>¥modules¥com¥rsa¥cryptoj¥main¥
```

3. 以下の場所に module.xml ファイルを作成します。

```
<JBASS-HOME>¥modules¥com¥rsa¥cryptoj¥main
```

4. xml ファイルに以下を追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<module xmlns="urn:jboss:module:1.0" name="com.rsa.cryptoj">
  <resources>
    <resource-root path="cryptoj.jar"/>
    <resource-root path="certj.jar"/>
    <resource-root path="sslj.jar"/>
  </resources>
  <dependencies>
    <module name="sun.jdk"/>
    <module name="javax.api"/>
  </dependencies>
</module>
```

5. JBoss サーバを再起動します。

JBoss サーバで affwebservices war ファイルを展開できます。

JBoss または Tomcat での FWS アプリケーションの展開

次の手順に従ってください:

1. コマンドウィンドウを開けて、以下に置かれる `affwebservices` ディレクトリに移動します。

```
/webagent_option_pack/affwebservices/
```

2. コマンドの入力により `WAR` ファイルを作成します。

```
jar cvf affwebservices.war *
```

Web アプリケーションを展開する詳細については、アプリケーションサーバ用のドキュメントを参照してください。

3. 適切なサーバの場所に `affwebservices.war` ファイルをコピーします。

JBoss

```
JBOSS_home/server/default/deploy/
```

`JBOSS_home` は JBoss アプリケーションサーバがインストールされている場所です。

注: - JBoss EAP 6.1 については、`affwebservices.war` ファイルの展開に管理コンソールを使用します。

重要: JBoss の場合、`affwebservices` は展開された状態でデプロイします。参照先

<https://access.redhat.com/knowledge/solutions/34813>

Tomcat

```
Tomcat_home/webapps
```

`Tomcat_home` は Tomcat アプリケーションサーバがインストールされている場所です。

4. アプリケーションサーバを再起動します。
5. サーバが再起動した後、JBoss または Tomcat 管理コンソールにアクセスします。`affwebservices` がサポートするすべてのサービスがメインのコンソールページに表示されます。

6. Web ブラウザを開き、以下の URL を入力することで FWS アプリケーションが機能していることをテストします。

`http://fqhn:port_number/affwebservices/assertionretriever`

`fqhn`

完全修飾ホスト名を表します。

`port_number`

フェデレーション Web サービス アプリケーションがインストールされているサーバのポート番号を指定します。

例：

`http://myhost.ca.com:81/affwebservices/assertionretriever`

FWS が正しく動作している場合、以下のメッセージが表示されます。

アサーション取得サービスは正常に初期化されました。(Assertion Retrieval Service has been successfully initialized.)

リクエストされたサーブレットは、HTTP POST リクエストのみを受け付けます。(The requested servlet accepts only HTTP POST requests.)

このメッセージは、FWS がデータ アクティビティをリッスンしていることを示しています。FWS アプリケーションは現在、アプリケーションサーバに対して展開されています。

フェデレーション Web サービスが正しく動作していない場合、アサーション取得サービスが失敗したことを示すメッセージが表示されます。失敗がある場合は、FWS ログを確認します。

注: FWS アプリケーションに対してトレース ログ記録を有効にする方法については、「トレース ログ記録」を参照してください。

第 5 章: 無人モード インストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[無人モード インストールを実行する方法](#) (P. 65)

無人モード インストールを実行する方法

Web エージェント オプション パックを 1 つのシステムにインストールした後は、Web エージェント オプション パックの無人モード インストールを使用して、他の Web サーバやアプリケーション サーバへのインストールを自動化できます。無人モード インストールでは、ユーザが操作することなく、Web エージェント オプション パックをインストールまたはアンインストールすることができます。

無人モード インストールを実行するには、以下のことをする必要があります。

1. GUI または コンソール モード でインストールを実行して、無人インストール プロパティ ファイルをインストールします。
2. プロパティ ファイルを変更します。
3. 無人インストールを実行します。

この章では、以下の内容について説明します。

- [無人モード インストールの準備](#) (P. 66)
- [無人モード インストールの実行](#) (P. 67)
- [進行中の無人インストールの停止](#) (P. 68)

無人モード インストールの準備

無人モード インストールは、`ca-wa-opack-installer.properties` ファイルを使用してオプションパック インストールセットアップをネットワーク内のすべてのサーバに伝達します。プロパティ ファイル内にインストールパラメータを定義し、その後、プロパティ ファイルおよび Web エージェント オプションパック実行可能ファイルをネットワーク内の任意の適用可能なサーバにコピーできます。ファイルがコピーされた後、無人インストールを実行できます。

無人モード インストールの準備方法

1. GUI またはコンソール モードで Web エージェント オプションパックの初期インストールを実行します。

このインストールは `ca-wa-opack-installer.properties` ファイルをインストールします。

2. `ca-wa-opack-installer.properties` ファイルを開き、必要に応じて設定を変更します。

プロパティ ファイルは `web_agent_opack_home/install_config_info` ディレクトリに保存されています。

USER_INSTALL_DIR

Web エージェント オプションパックのインストール場所を指定します。

USER_REQUESTED_RESTART

インストール後にマシンが再起動されるよう指定します。

注: これらのデフォルト値は、初回インストール中にプロパティ ファイルに保存されます。

3. プロパティ ファイルを保存します。

無人モード インストールの実行

無人モード インストールを実行できます。

次の手順に従ってください:

1. 準備手順が完了していることを確認します。
2. オプションパックをインストールするシステム上のローカル ディレクトリに以下のファイルをコピーします。
 - Web エージェント オプション パック 実行可能ファイルまたはバイナリ
 - `ca-wa-opack-version-windows_platform.exe`
 - `ca-wa-opack-version-operating_system.bin`
 - `ca-wa-opack-installer.properties`
3. コンソール ウィンドウを開いて、ファイルをコピーしたディレクトリへ移動します。
4. 以下のコマンドを実行します。

```
webagent_option_pack_executable -f properties_file -i silent
```

Windows の例 :

```
ca-wa-opack-12.52 SP1-win32.exe -f ca-wa-opack-installer.properties -i silent
```

Solaris の例 :

```
./ca-wa-opack-12.52 SP1-sol.bin -f ca-wa-opack-installer.properties -i silent
```

これらの例は、実行可能ファイルとプロパティ ファイルが含まれるディレクトリからインストールを実行していることを前提としています。このディレクトリからインストールを実行していない場合は、これらのファイルへの完全パスを指定します。ディレクトリパスにスペースがある場合は、パス全体を引用符で囲みます。

無人インストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了したら、コマンドプロンプトが再度表示されます。

5. ログ ファイル `CA_SiteMinder_Option_Pack_12.52 SP1_for_Web_Agent_InstallLog.log` を表示して、インストールが正常に完了したかどうかを確認します。このファイルは、ディレクトリ `web_agent_opack_home/install_config_info` に置かれています。

進行中の無人インストールの停止

以下の手順に従います。

Windows

Windows タスク マネージャを開き、以下の 2 つのプロセスを停止します。

- ca-wa-opack-12.52 SP1-win32.exe
- wa_option_pack.exe

UNIX

Ctrl+C を入力します。

第 6 章: Web エージェント オプション パック のアンインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Windows システムからの Web エージェント オプション パックのアンインストール \(P. 69\)](#)

[UNIX システムからの Web エージェント オプション パックのアンインストール \(P. 70\)](#)

Windows システムからの Web エージェント オプション パックの アンインストール

Web エージェント オプション パックを Windows システムから削除するには、オプション パックをアンインストールします。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバを停止します。
2. 実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
3. Windows のコントロールパネルを開きます。
4. [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
5. [CA SiteMinder Option Pack for Web Agent] を選択します。
6. [削除] をクリックします。
7. アクションを確認します。
8. [アンインストール] をクリックします。
9. Web サーバを停止してから再起動します。

UNIX システムからの Web エージェント オプション パックのアンインストール

GUI またはコンソールモードで UNIX システムから Web エージェント オプション パックをアンインストールできます。コンソールモードでアンインストールするには、コマンド引数「`-i console`」でオプション パック バイナリ ファイルを実行します。

次の手順に従ってください:

1. Web サーバを停止し、実行中のアプリケーションをすべて終了します。
2. コンソール ウィンドウを開きます。
3. PATH 環境変数への JDK の場所を以下のように追加します。

```
PATH=/jdk_home/bin:${PATH}
export PATH
```

`jdk_home` は JDK の場所です。この手順は Java 仮想マシンが見つからないことを示すエラー メッセージを削除します。

4. Web エージェントのインストール場所に移動します。

例: `/opt/ca/webagent/`

5. プロンプトで、以下のコマンドのいずれかを入力します。

GUI モード: `./ca-wa-opack-uninstall.sh`

コンソールモード: `./ca-wa-opack-uninstall.sh -i console`

6. オプション パックの削除の確定を促すダイアログ ボックスを確認し、[アンインストール] をクリックします。

Web エージェント オプション パックがシステムから削除されました。

第 7 章: Web エージェント オプション パック のアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

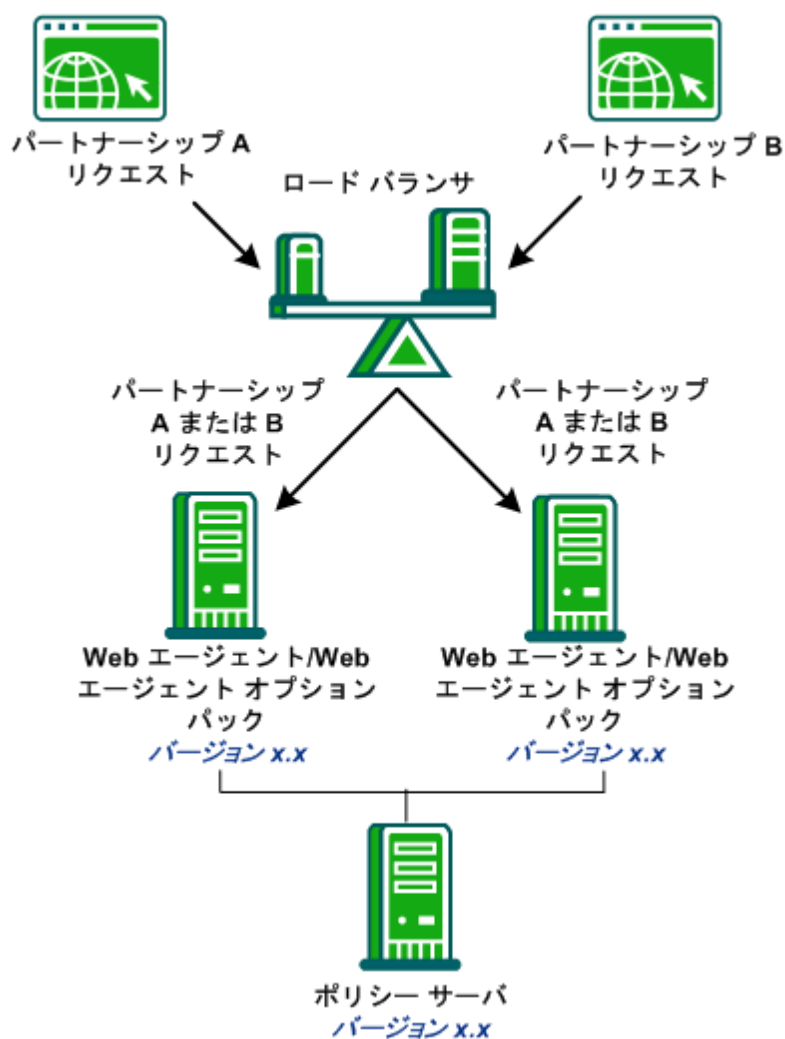
[混在バージョンのアップグレードに関する考慮事項 \(P. 71\)](#)

[オプションパック アップグレードの実行 \(P. 75\)](#)

混在バージョンのアップグレードに関する考慮事項

移行とアップグレードを簡略化するために、Web エージェント オプションパックは互換性のある異なるバージョンのポリシー サーバと動作できます。この混在バージョンのサポートによって、Web エージェントを現在のバージョンで維持しながら、ポリシー サーバおよびその他の Web エージェントをアップグレードできます。ただし、混在バージョン環境はフェデレーション機能が 2 つのコンポーネントのうち低い方に制限されるので、恒久的に使用することはお勧めしません。

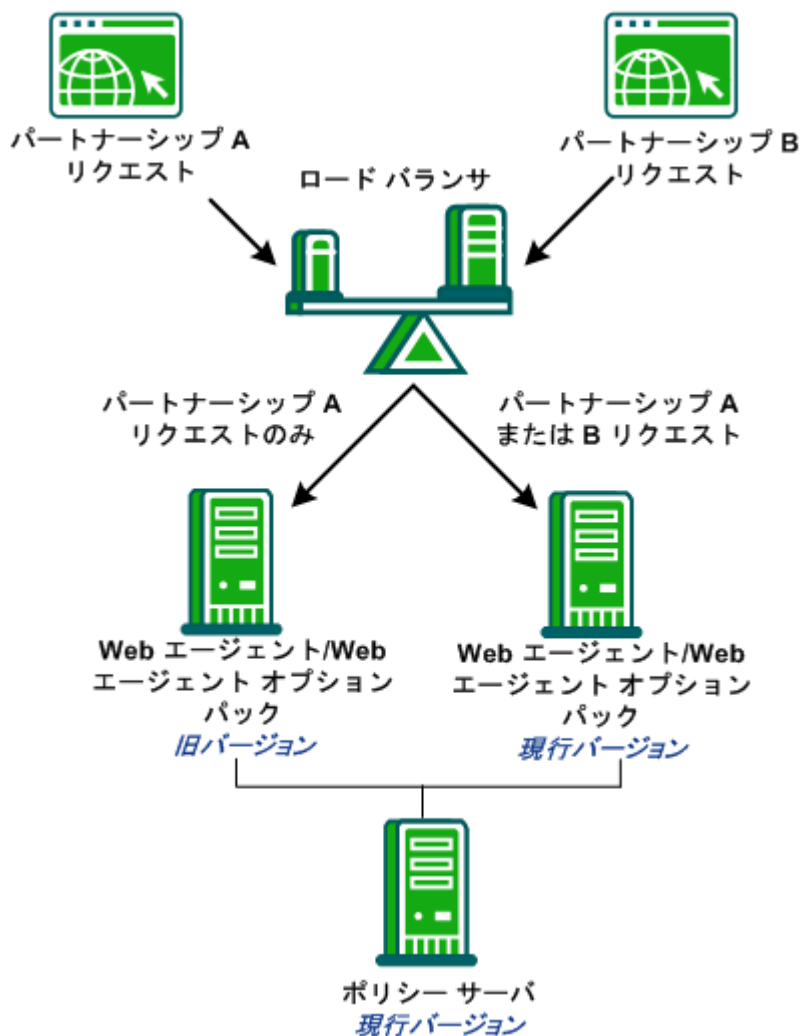
Web サーバ間のリクエストの配布に対してハードウェア ロードバランサを使用する環境をアップグレードする場合、バージョンによる機能上の制限が存在します。以下の図に示すように、Web エージェントオプションパックが適用された2つの Web エージェントとポリシーサーバが同じ旧バージョンである展開を考慮します。



ローリングアップグレード中に、管理者はポリシーサーバおよび1つのWebエージェントとオプションパックのみを12.52 SP1にアップグレードします。アップグレードされたエージェントおよびオプションパックは、IdPでSAML 2.0 ユーザ許可をサポートします。パートナーシップ B は IdP でユーザ許可を要求するように再設定されます。また、パートナーシップ A のセキュリティ設定は変わりません。

パートナーシップ A の機能は新しい機能を使用しないので、それがルーティングされるオプションパックにかかわらず動作し続けます。ただし、ロードバランサが旧バージョンのオプションパックにリクエストを送る場合は常に、パートナーシップ B のリクエスト (IdP でユーザ許可を要求する) は失敗します。

両方の Web エージェントがアップグレードされるまでパートナーシップ B のリクエストの失敗を防ぐには、管理者はパートナーシップ B のリクエストを現在のオプションパックにのみルーティングするようにロードバランサを設定する必要があります。次の図に、この構成を示します。



詳細情報:

[バージョン互換性](#) (P. 13)

オプション パック アップグレードの実行

Web エージェント オプション パックをアップグレードする前に以下のポイントを考慮します。

- Web エージェント オプション パックのバージョンは、ポリシー サーバのバージョンと互換性がある必要があります。Web エージェント オプション パックとポリシー サーバのバージョンを確認するには、SiteMinder プラットフォーム サポート マトリックスを参照してください。
- Web エージェント オプション パックとポリシー サーバが互換性のある別バージョンの場合、フェデレーション機能は 2 つのコンポーネントのうち、バージョンの低い方に制限されます。
- 同じシステムに Web エージェントと Web エージェント オプション パックがインストールされる場合、サービス パックおよび CR バージョンを含めて、同じバージョンである必要があります。

重要: アップグレードするとき、プログラムは自動的に新しいバックアップ設定ファイルを作成し、既存の設定ファイルを上書きします。

Web エージェント オプション パックをアップグレードする方法

1. Web エージェント オプション パック インストールプログラムの実行
インストールプログラムはアップグレードとして実行できます。
詳細については、「[インストール手順 \(P. 17\)](#)」を参照してください。
2. プロンプトに従って、システムをアップグレードします。

詳細情報:

[バージョン互換性 \(P. 13\)](#)